

令和元年度 特別養護老人ホーム鑑石園 事業報告書

1. 事業運営の概況

令和元年度事業計画に基づき、介護力向上に向けて取組みを実施した他、虐待防止や身体拘束廃止など施設利用者の処遇改善も積極的に行った。

稼働率 98.5%を目標に企画調整会議や各階のミーティングで毎月の稼働率を発表し、職員の意識改革と周知を図ってきたが、体調不良による入院者が増加した事や、数名の職員がインフルエンザに感染し、人員不足から新規入所者対応が難しくなったため、令和元年度の稼働率は 94.6%と目標達成に至らなかった。

各種委員会においては、各々の担当分野からの視点で、業務改善に向けた方策を検討、試行する等、より良い介護サービスを提供するための取組みを行った。

非常災害対策として、初期消火・避難誘導・AED 研修の防災訓練を実施すると共に、防災設備や自家発電機の使い方を職員に周知した。また、事業継続計画の見直し、防災備蓄用品の見直し等も行った。

2. 事業計画実施状況

(1) 介護力の向上に向けた取組み

- ① 転倒事故ゼロを目指して取り組んだ。ヒヤリハットを活用して事故防止に努め、各階のミーティングにて事故の分析と対応策を周知した。前年度 12 件あった転倒事故が本年度は 7 件になった。
- ② 日常的にうめぼし体操や口腔体操を行い、入居者の残存機能の維持に努めると共に、天気の良い日は屋上を解放し、日光浴や散歩を行った。

(2) 虐待防止と身体拘束廃止への取組み

- ① 入居者に対する言葉づかいやマナー等を向上させる狙いで、1週間単位の目標を設定して、各職員が自己チェックを行った。また、周りの職員についてのチェックも同様に実施し、職員同士が注意しあえる環境作りに努めた。
- ② 入居時に家族に対して身体拘束をしないことにより発生するリスクについて十分に説明を行った。
- ③ 内部研修にて高齢者虐待防止及び身体拘束防止に対する意識を徹底させ、職員全員で入居者の安全や健康に留意した。

3. 稼働率の向上に向けた取組み

- ① 稼働率 98.5%の数値目標を掲げ取り組んできたが、入居者の体調不良による入院者の増加および、数名の職員のインフルエンザ感染による人員不足から新規入所者対応が難しく、本年度の稼働率は94.6%と目標達成に至らなかった。
- ② 受入可能な入居対象者として糖尿病・胃瘻等の方が増えていないので、今後の検討課題とする。
- ③ 積極的な医療行為を希望されない場合には、こまめに連絡してコミュニケーションを図り、家族の同意を得て、施設で積極的に看取っていった。
- ④ 空床が発生した場合には1週間以内に次の候補者に入居していただくよう努めたが、速やかに入居出来ない事があった。

4. 委員会活動

① 安全対策委員会(毎月1回)

令和元年度における事故報告事例は119件で、その内受診を要した事故等により富士市に報告した事例は5件であった。事故報告書は介護職員全員が閲覧し、再発防止に努めた。また、同様の事故が発生した場合は再度対応策を検討し、各階のミーティングで周知した。ヒヤリハット事例についても委員会内で分析を行い、対策を検討し周知した。

② 身体拘束廃止委員会(毎月1回)

身体拘束・スピーチロック廃止についての検討内容を基に、全職員に対し身体拘束廃止のための内部研修を2回開催した。また入居者に対する言葉づかいやマナー等を向上させる狙いで、1週間単位の目標を設定して、各職員が自己チェックを行った。また、周りの職員についてのチェックも同様に実施し、職員同士が注意しあえる環境作りに努めた。

③ 褥瘡予防委員会(隔月1回)

入居者の身体状況に合わせて、体位変換クッションや褥瘡予防マットレスを活用し、臥床時の体位や車椅子乗車時の座位を安定させ、新たな褥瘡の発生を防いだ。また内部研修を開催し、褥瘡予防に努めた。

④ 感染症対策委員会(隔月1回)

インフルエンザ発生時期に合わせて内部研修を行い、施設内の消毒及び職員と面会者のマスク着用・手指消毒を徹底すると共に、職員には出勤前の健康チェックを義務付け、ウィルスの侵入防止に努めたが、入居者および職員のインフルエンザの感染が発生した。

⑤ 防災委員会(毎月1回)

各種災害を想定した搬送訓練・救護訓練・AED研修を実施し、誰もが緊急時の対応ができるよう技術の向上を図った。

⑥ 衛生管理委員会(毎月1回)

職員の健康診断の結果を基に多かった症状をテーマに勉強会を行った他、ストレスチェックを実施し自らの体調管理についての意識向上を図った。

5. 各部署での取組み

① 生活相談員・介護支援専門員

入居者本人と家族のニーズの把握については、新規入居の前に生活相談員、介護支援専門員、看護師にてアセスメントを実施し、アセスメント表及び課題整理総括表を作成し、スムーズに施設生活を送れるように努めた。

また、適時に再アセスメントを実施、課題整理総括表の更新、ヒヤリハット、事故報告書から入居者の課題を探りサービス内容に反映させ事故防止に努めた。

稼働率の向上への取組みについては、入所申込みに来られた方には即時対応し、速やかに申し込み手続きが完了できるよう職員の勤務体制を整えた。

また、入所待機上位者の現状確認後、面接を実施した。

② 管理栄養士

栄養ケアマネジメントについては、入居者全員に対し、低栄養の予防・改善を図るために栄養ケア計画を作成し定期的に評価・見直しを行い、評価ツールとして、月1回以上の体重測定、毎日の喫食量の把握に努めた。

衛生管理の強化については、感染症対策委員会と協働して食中毒予防に努めた。

コスト削減への取組みについては、喫食状況、嗜好確認、食数管理を徹底し廃棄となる食事を減らすよう努めた。

災害時の厨房対応については、食事の提供を継続するために、日頃から厨房職員との連携を密にし、被災時の対応について意思統一を図るとともに、必要量の非常食を確保し、管理を行った。

③ 看護師

入居者の健康管理については、一人ひとりの健康状態の把握に努め、嘱託医と連携を取りながら定期的に回診、健康診断等を行うほか、必要に応じて個別に受診及び検査等を行った。また、入居者の体調が急変された場合、嘱託医又は他

の医療機関を受診した。

看取りの実施については、施設での看取りを希望される方に対しては、出来る限り入居者と家族の気持ちに寄り添えるよう職員間で連携をとりながら対応した。

職員の健康管理については、下記内容を実施した。

- ・健康診断を年 1 回実施
- ・夜勤者を対象とした健康診断を年 1 回実施
- ・インフルエンザ予防のワクチン接種を実施
- ・ストレスチェックの実施
- ・10 月～3 月に職員一人ひとりの体温や体調不良のチェックを行い、感染症の流行拡大を防いだ
- ・感染症の発生状況を掲示し、予防の意識高揚を図った

6. 非常災害対策について

事業継続計画の見直しを行い、役割分担の再検討を行った。合わせて備蓄品の見直しと購入を行った。非常食は入居者数の 7 日分を確保している。

自家発電機も購入し、防災訓練にて使用方法の周知を行った。

年1回の夜間想定非常呼集訓練については、今年度は大規模災害時、電話が使用できない恐れがあることから、新たにメールでの連絡が出来る体制を確保し実施した。

令和元年度 防災訓練実施内容

	内 容
4 月	通報、初期消火、避難誘導訓練、新人職員防災訓練
5 月	防災設備、備品取扱い講習
6 月	消化器を使用した初期消火
7 月	AED 講習
8 月	火災想定 通報訓練、初期消火、避難誘導訓練
9 月	事業継続計画書講習
10 月	地震想定 通報訓練、初期消火、避難誘導訓練
11 月	炊き出し訓練、避難誘導訓練、震災訓練
12 月	避難用具 おんぶらつく講習
1 月	地震想定 通報訓練、初期消火、避難誘導訓練
2 月	緊急時の応急処置講習
3 月	非常呼集訓練

7. コスト削減への取組み

- ① オムツの使用量を削減するために、入居者の使用するおむつとパッドを個別に見直し、正しく使用することで無駄を減らした。パッドはコスト計算をして、安くなるよう新しいものを取り入れ、年間で約 17 万円の削減ができた。
- ② 光熱費を削減するために、常に節電・節水を心掛け、経費削減を図った。またエアコンのフィルターの清掃、基本温度設定を設け、電気使用量消費を抑えた。
入居者から温度調節の訴えがあった時には、エアコンの調整と合わせて衣類・寝具等を整えて対応するよう努めた。

8. 仕事のしやすい職場環境づくり

始業時、終業時、休憩時の職員同士のあいさつや声掛けを大切にし、コミュニケーションを図った。

9. 実施事項

① 年間行事

令和元年度に行った主な行事は次の通り。

4月	花見会
5月	デザートバイキング
7月	七夕、納涼祭
8月	盆供養、素麺食べ放題
9月	敬老会
10月	福祉展見学、福祉祭り参加
11月	寿司食べ放題、焼き芋
12月	餅つき
1月	お屠蘇配り、書初め
2月	節分、寿司食べ放題
3月	ひな祭り、彼岸供養

② ケアカンファレンス

各入居者の介護保険認定更新時期に合わせ、介護支援専門員・看護師・管理栄養士・介護職員が出席してカンファレンスを行い、ケアプランを作成した。内容については、身体状況に応じて重点項目を見直し、継続的な支援が実施できるよう心掛けた。

③ 健康管理

ア. 嘱託医回診 …… 毎週 1 回(水曜日)／富士岡秋山医院

イ. 歯科往診 …… 随時／片岡歯科

ウ. 健康診断 …… 年1回(6月)／新富士病院

④ 入所判定委員会

近隣地区の民生委員 2 名を含む入所判定委員会を、4 月、7 月、10 月、1 月に開催し、優先入所基準に基づく採点により、入所順位が上位となった待機者について検討し、適正な施設入所に努めた。

令和元年度の入居者は 10 名であった。

10.職員資質の向上

静岡県社会福祉協議会が主催する研修を中心として、年間研修計画に沿って外部研修を受講した。外部研修を受けた職員が講師となり内部研修を行った他、各委員会から提案されたテーマによる内部研修を順次行った。

研修の実施状況は別紙のとおり。

11.連絡会議等への参加

① 相談員連絡会(年6回)

富士圏域の他の老人福祉施設・老人保健施設等で相談員業務に携わる職員と意見・情報交換に努めた。また、介護保険制度の改正をはじめ、市の今後の方針等について情報収集を行い、業務改善に役立てた。

② 栄養士会(年6回)

富士圏域の介護老人福祉施設の栄養士を対象として開催している栄養士会に参加した。献立や調理方法等について意見交換を行う事により、給食業務の改善に役立てた。

令和元年度 職員外部研修参加状況

職 種	参加延人数	主 な 研 修
施 設 長	2	年金セミナー
		職場におけるパワーハラスメント等対策説明会
事 務	8	改正消費税への対応と税制改正のポイント
		社会福祉法人・施設職員税務実務講座
		年末調整等説明会
		自計化システム、スキルアップ研修会
特養・ショート	21	福祉職員キャリアパス対応生涯中堅職員コース
		令和元年度認知症介護実践研修
		社会福祉施設等における感染症予防講座
		高齢者施設従事者向け施設従事者による虐待防止研修会
		福祉職場のストレスマネジメント講座
		共感を得る「ことば」講座
		福祉人材育成事業研修会
		福祉避難所の設置・運営に関する実務研修会
社会福祉施設等における感染症予防講座		
栄 養 士	4	栄養士研修会
		ノロウイルス衛生講習会
		給食施設栄養管理研修会
		地域高齢者の食支援に関する研修会
居宅介護支援事業所 高齢者支援窓口	23	令和元年度介護支援専門員基礎研修
		介護予防におけるケアマネジメントの捉え方と実践について
		相談支援専門員と主任介護支援専門委員との研修会
		高齢者施設従事者向け施設従事者による虐待防止研修会
		富士市介護予防・日常生活支援総合事業に係る説明会

令和元年度 内部研修参加状況

研修日	事業	研修名	講師	参加人数
4月1日	鑑石園全体	新任職員研修	各担当者	5
5月17日		衛生(ストレス)について	衛生委員会	19
6月21日		感染症対策について	生活相談員	15
9月27日		防災について	施設ケアマネ	17
11月15日		感染症対策、ストレス、認知症について	各担当者	26
1月31日		スピーチロック、安全運転について	各担当者	18
3月20日		事故対策について	安全対策委員	17
3月27日		褥瘡について	褥瘡対策委員	20
12月9日		特別養護老人ホーム ショートステイ	看取りについて	施設ケアマネ
12月17日	5			
4月1日	デイサービス	応急処置について	管理者	5
6月5日		熱中症について		5
8月7日		AED講習について		5
9月2日		ひやりはつとについて		5
10月2日		認知症について		5
1月10日		苦情・要望について		4
3月6日		一年間の反省		4
4月3日	在宅介護支援センター	介護支援専門員倫理綱領への理解	センター長	4
6月5日		健康づくり、ヘルパー事業所について		4
6月11日		感染症:疥癬について		4
7月3日		身体拘束、虐待について		4
7月24日		失語症について		4
10月17日		実地指導について		4
2月20日		R2年在宅介護支援センター事業計画について		4
3月31日		事例検討会について		4